

Anritsu Way

アンリツが、創業以来変わらぬ姿勢で育み続けてきた当社らしさは、企業理念の中にある「誠と和と意欲」、「オリジナル&ハイレベル」という2つの言葉に凝縮されています。

「誠と和と意欲」

事業を営むうえでの姿勢・想い・覚悟といった心の在り様と価値観

「誠」 お客さまやすべてのステークホルダーからの期待に応える信頼性

「和」 社内外の衆知を集めて事業環境や社会の要請の変化に機敏に対応する適応力

「意欲」 5G、IoTなど最先端の技術を磨き新たな価値を提供する先進性

“オリジナル&ハイレベル”

企業活動の上流から下流までを貫く企業としての在り様

(1) 商品・サービスが提供する社会価値・顧客価値がすぐれたものであること

(2) そのような成果物を生む企業文化、経営システムや仕事の進め方など

安全・安心で豊かなグローバル
社会の発展に貢献します。



企業理念

経営理念

「誠と和と意欲」をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する

経営ビジョン

衆知を集めたイノベーションで社会のサステナビリティに貢献し“利益ある持続的成長”を実現する

経営方針

1. 衆知を集めた全員経営でハツラツとした組織へ
2. イノベーションで成長ドライバーの獲得
3. グローバル市場でマーケットリーダーになる
4. 良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献

アンリツグループ企業行動憲章
アンリツグループ行動規範



ブランドステートメント envision : ensure

アンリツらしさを構成する2つのDNA、「誠と和と意欲」と“オリジナル&ハイレベル”をより具体的にイメージしていただくため、明瞭・簡潔で、かつグローバルな普遍性を持つ“envision : ensure”を、アンリツのブランドステートメントとして結実させました。

ここにはわたしたちの「お客さまと夢を共有しビジョンを創りあげるとともに、イノベーションによりお客さまの期待を超える確かなかたちあるものへと創りあげる」というメッセージが込められています。

今、社会には5G/IoTに代表される次世代の情報通信ネットワークである社会インフラの整備や、食の安全・安心を保証し、より効率的な食品流通を実現する、といったサステナビリティ課題が山積しています。

アンリツは世界初の実用無線電話機、日本初のラジオ放送受信機、テレビジョン放送機、などの商品をお客さまの期待に応えながら社会に提供し、技術革新に貢献してまいりました。このパイオニア精神を脈々と継承し、今後もSDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) をはじめとする社会課題の解決に向け、サステナビリティ経営を推進し、「安全・安心で豊かなグローバル社会」の実現に貢献してまいります。

アンリツが目指すサステナビリティ経営

envision : ensure

Anritsu way
envision : ensure

社会軸
SDGs



事業軸

サステナビリティ方針

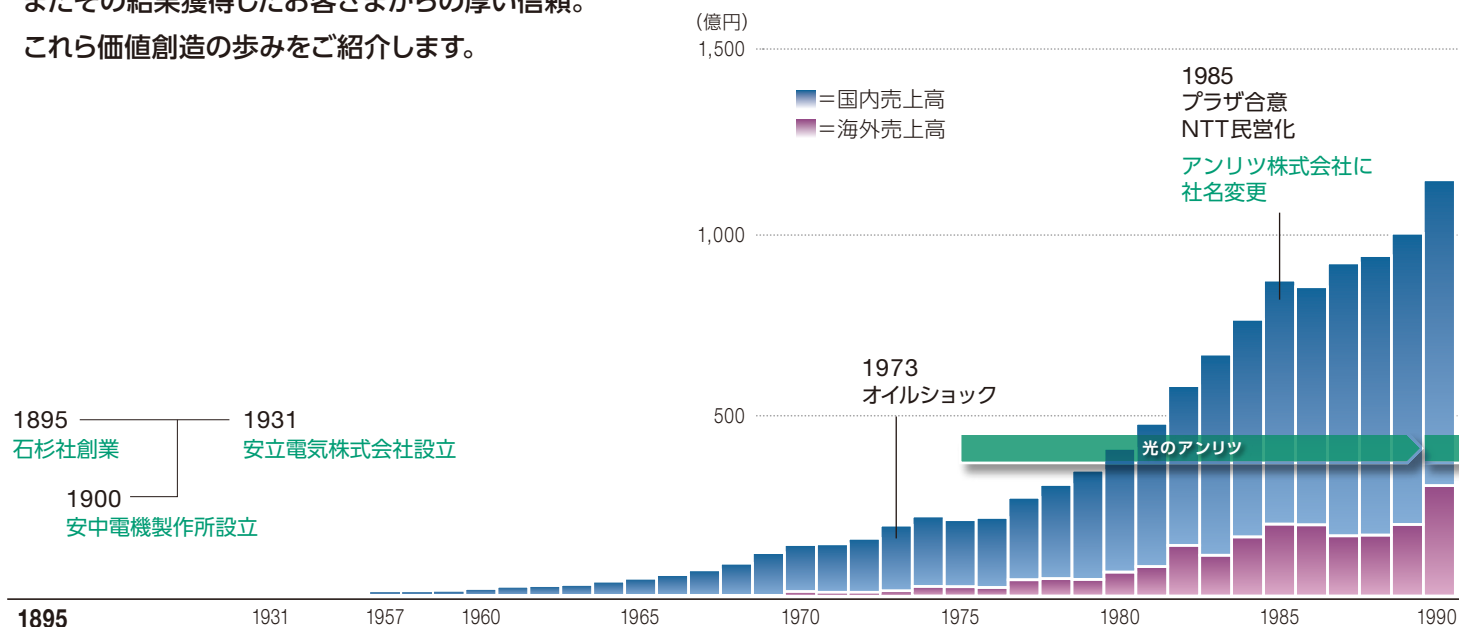
私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会のサステナビリティに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します

1. 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で快適な社会構築に貢献します
2. 誠実な企業活動を通じて、グローバル経済社会との調和を実践します
3. 人と自然が共存する環境経営を推進して、地球環境保護に貢献します
4. すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを推進して、強固なパートナーシップを構築します



Anritsu Value History

アンリツが「誠と和と意欲」をもって、「オリジナル&ハイレベル」な姿勢で新たな価値を社会に提供し続けて124年。
アンリツグループの企業価値の源泉である創業以来の通信・計測・検査といった先進技術の蓄積、そのプロセス
の中で磨き上げてきたニーズへの機敏な適応力と、
またその結果獲得したお客さまからの厚い信頼。
これら価値創造の歩みをご紹介します。



先進技術の蓄積 / 変化への適応

1895-1930
黎明期

1931-1949
有線・無線の統合期

1950-1962
新生安立電気による再興期

1963-1974
多角化による事業拡大期

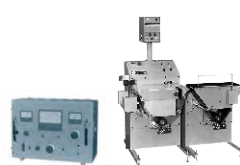
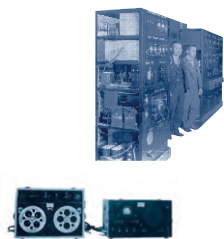
1975-1989
光のアンリツの時代

誠と和と意欲の変革の歴史

- 日本の情報通信技術の黎明期を担う
- 関東大震災後の不景気、世界大恐慌、競争激化で経営危機に陥る
- 共立電気（石杉社）と安中電機製作所の合併で安立電気設立
- 日中戦争勃発により戦争の時代へ（軍需景気）
- 終戦とともに民需への転換で企業再建をはかる
- 企業再建法に基づく第2会社方式で再スタート
- 日本復興に向けた通信インフラの整備拡充を支える
- 東京本社オフィスの建設・厚木事業所（現在の本社地）の開設
- 6事業部体制で事業多角化を推進
- 日本の高度成長を支える通信インフラ拡大を支える
- 公衆電話機の輸出事業スタート
- AT&T社にマイクロ波回線用測定装置の大量納入でアメリカに事業基盤を構築
- 光通信網の拡充投資で国内外の光計測事業が拡大
- NTT民営化による通信市場の開放で計測市場が拡大
- 公衆電話機の海外事業が拡大

オリジナル&ハイレベルへの挑戦

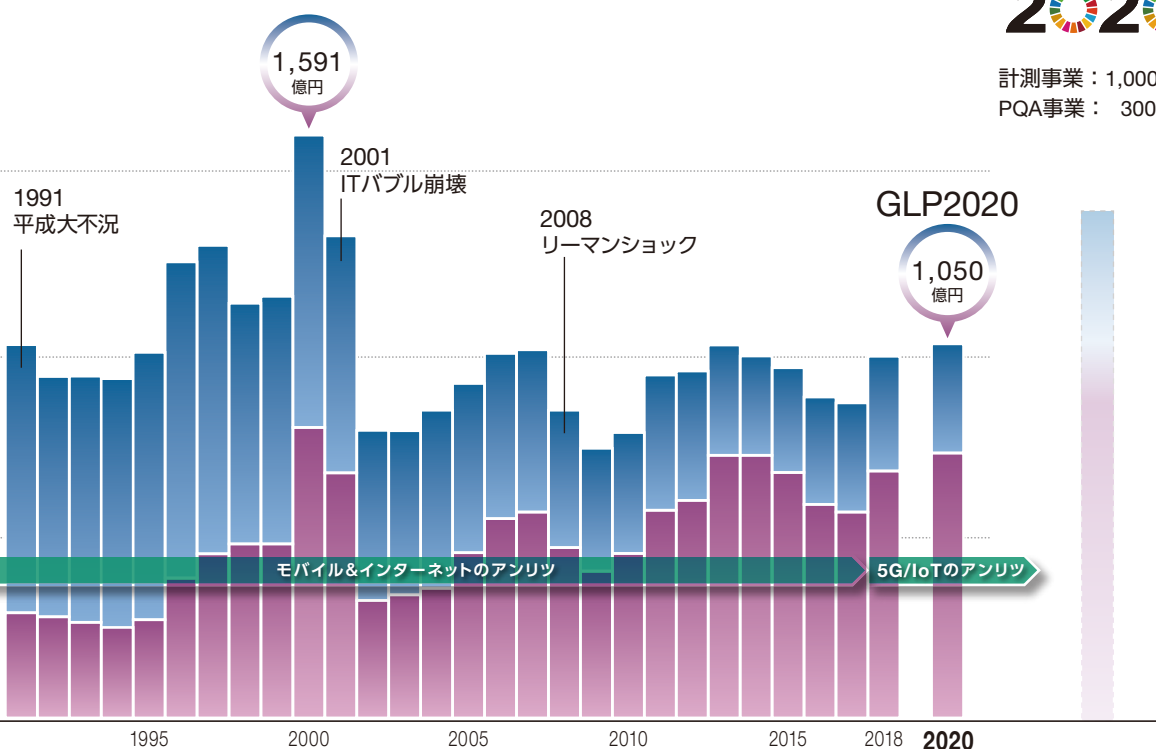
- 日本の有線通信の先駆者となる（自働電話機の製造）
- 世界初の無線電話機の実用化を担う（TYK式無線電話機）
- 日本初のテレビジョン放送機の開発、製造
- 磁気録音機（交流バイアス方式）開発
- 公衆電話機・磁石式交換機の量産
- 計測事業の先駆けとなるマイクロ波回線用測定器開発
- 船舶用の無線装置開発
- デジタル伝送向けの測定器開発
- PQA事業の先駆けとなる重量選別機開発
- コンピュータとその周辺機器開発
- 光通信向け測定器（世界初の光パルス試験器OTDR）開発
- カード式公衆電話機



Beyond 2020

計測事業：1,000億円

PQA事業：300億円



計測事業

「はかる」技術で
安全・安心な
5G/IoT社会を構築

信頼関係の構築

アンリツへの期待

1990-2000

マルチナショナル企業としての基盤づくり

- 創業100周年：21世紀経営ビジョン「グローバルの顧客に、グローバルの技術で、グローバルの企業に」
- ウィルトロン社買収による海外における開発・製造・販売拠点の統合と拡大
- 平成大不況で赤字転落
- 事業の選択と集中：ノンコア事業の撤退、譲渡を進める

2001-

21世紀 グローバルブランドへの道

- 北米 IT バブルで史上最高益と大幅赤字転落
- 経営構造改革（本社機構を厚木市に集中）
- モバイル計測分野のグローバル・リーディングカンパニーへ成長
- ネットテスト社の買収でOSS市場参入

PQA事業

「はかる」技術で
安全・安心な食品と
健康な暮らしを提供

- デジタル移動無線用測定器をシリーズ化
- 高速大容量光デジタル通信市場向けのSONET/SDH/PDH/ATM アナライザ開発
- 超高速半導体デバイス（MMIC）開発
- 光増幅器用励起光源（光デバイス）の開発、外販



- 世界初のW-CDMAコンフォーマンステストシステム開発
- 世界最高効率のミリ波帯平面アンテナ開発
- 世界初の3GPP規格準拠の5G チップセット・端末検証用テスト開発



ESG

サステナブルな
社会づくり



Anritsu Value Creating Story

アンリツの企業価値の源泉は、アンリツらしさの「信頼性、適応力、先進性」の根源でもある、有形、無形の各資本です。アンリツは、持てる資本を最大限に活用して、社会課題の解決に貢献する企業活動を実践してまいります。

計測事業

5G/IoTの進化で社会イノベーションを牽引する

モバイルブロードバンドサービスの進化で快適なコミュニケーションを実現する

地球規模で強靱なネットワークインフラを実現して安全・安心、快適なグローバル社会を実現する

知的資本

120年の知の集積、イノベーション力

- ・無線・有線通信技術の蓄積
- ・ネットワーク品質保証技術
- ・超高速・光デバイスの開発・製造
- ・秤応用・異物検出技術

人的資本

グローバルな組織と人材

- ・組織力を高める学習する組織
- ・最先端技術をリードする人材
- ・顧客密着のサポート要員と体制

計測事業

5G/IoT社会のリーディングカンパニーになる

モバイル市場
・5G/IoTシステム開発
・モバイル機器製造

ネットワークインフラ市場
・通信ネットワークの構築
・データセンターの高速大容量化

エレクトロニクス市場
・電子デバイスの開発製造
・公共無線網の構築

アンリツへの期待 (社会からの要請)

インプット

事業活動

PQA事業

食材や医薬品に対する安全・安心の要求に応える品質保証を実現する

食物資源の適切な利用で生態系への影響を減少させる

社会・関係資本

リーディングカンパニーとのパートナーシップ

- ・お客さまとの強固な信頼関係
- ・グローバルな取引先・顧客リスト

財務資本

市場環境の変化に備えた財務安定性

- ・資本コストを意識した経営の実践
- ・強固なキャッシュ・フロー創出力
- ・高い信用力による資金調達

製造資本

オリジナル&ハイレベルなものづくり

- ・グローバルなSCM (サプライチェーンマネジメント)
- ・グローバルな開発体制
- ・グローバルな製造拠点ネットワーク
- ・BCP (事業継続計画) に基づくファシリティとSCM

自然資本

バリューチェーン全体で展開する環境経営

- ・環境マネジメントシステムの徹底
- ・環境配慮型製品の開発プロセス
- ・排水処理システム
- ・化学物質管理システム

PQA事業

ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナーになる

食品・医薬品市場
・食品加工・生産システム開発
・食材 (重量・異物) 選別システム開発
・医薬品製造システム開発

ESG

個の成長を実感できる働きがいのある職場環境を提供する

環境配慮型製品の開発と普及で低炭素社会の実現に貢献する

透明・公正で誠実な企業活動を行う

企業市民としてサステナビリティ社会の実現に貢献する

ESG

グローバル経済社会との調和

地球環境保護の推進

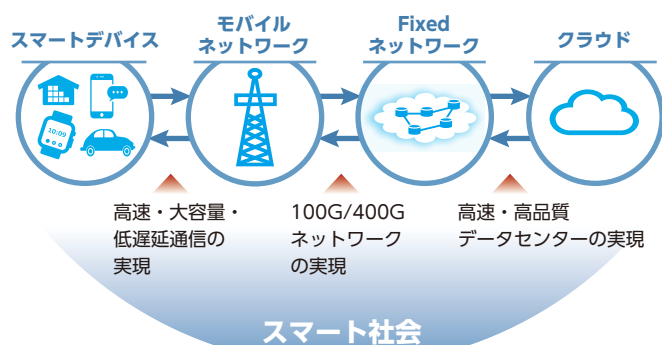
ガバナンスの強化と充実

コミュニケーションの推進による共有価値の創造

計測事業

P22～25

5G/IoTネットワークを支え、社会イノベーションを牽引する計測ソリューション



計測事業

P8



安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



安全・安心であらゆるものがつながる強靱なネットワークインフラを整備し、持続可能な社会の建設に貢献する

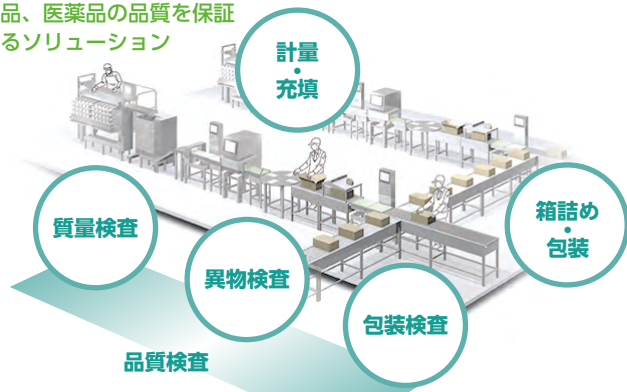
アウトプット

提供する社会価値
(安全・安心で快適な社会構築への貢献)

PQA事業

P26～29

食品、医薬品の品質を保証するソリューション



PQA事業

P9



安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



食品や医薬品の品質保証の高度化を通じて、誰もが安全で安心して暮らせる社会、食品ロスの少ない持続可能な社会の実現に貢献する

ESG

P30～41

- ・人権と多様性の尊重 ・人財育成 ・労働安全衛生
- ・人権に配慮したSCM（サプライチェーンマネジメント）
- ・CO₂排出量（エネルギー使用量）/水使用量の削減
- ・高品質で環境に配慮した製品の開発/製造
- ・環境負荷を低減するSCM
- ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンスの定着
- ・リスクマネジメントの推進
- ・ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション

ESG



多様な人財とともに、個々人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する



持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する



透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定とリスク管理で誠実な企業活動を行う



すべてのステークホルダーとともに協働して共有価値の創造に貢献する



事業を通じて解決する社会課題

計測事業

■ 社会課題の背景

SNSや写真共有・動画配信など、インターネットを通じたコミュニケーションは、社会と「つながる」ツールとして欠かすことのできないものとなっています。その「つながり」を実現している通信ネットワークは日々進化を遂げ、高速・大容量、超低遅延、多数同時接続を実現する5G(第5世代移動通信システム)の時代に入っています。5Gは、スマートフォンやタブレット端末の高度化に加え、医療、農業、自動車、防災などの産業分野で活用され、情報格差、交通事故防止、労働者不足などさまざまな社会課題を解決し、社会のサステナビリティを実現する通信インフラとして期待されています。



■ アンリツの取り組み

アンリツは、5Gを構成するスマートデバイス、モバイルネットワーク、Fixedネットワーク、クラウド・データセンターの開発、製造、建設、保守の各段階で、標準規格への適合性確認や通信品質の確保を支える測定ソリューションをお客さまへ提供しています。お客さまは当社の測定器を使い、安全・安心であらゆるものがつながる強靱な5Gの整備を進めています。

5Gは人々の生活をより快適にするとともに、産業分野で活用され、「経済成長とSDGsに代表される社会課題解決の両立」のためのインフラとなり、社会のサステナビリティに貢献することが期待されています。

アンリツは、先進的な計測技術で最適な測定ソリューションをいち早くお届けすることを使命に、お客さまとともに安全・安心な通信インフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献していきます。



PQA事業

■ 社会課題の背景

近代に入って急速に発達した食品加工技術により、食品は食材を購入して家庭で調理するものから流通する商品へと姿を変え、人々の生活を便利で豊かなものにしていきました。

一方、食品が大量に流通するようになると、食べられることなく廃棄される、いわゆる「食品ロス」が増え、社会問題としてクローズアップされています。SDGsのターゲット12.3には、持続可能な消費と生産のパターンを確保するための具体的な目標として、「1人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産やサプライチェーンにおける食品ロスを減少させる」ことが掲げられています。これにともない、多くの食品製造企業さまが、商品の「おいしさ」や「安全・安心」に加え、いかに食品ロスを減らすかを重要な課題に挙げています。



■ アンリツの取り組み

食品工場では、ファクトリーオートメーションにより高速かつ大量に食品を加工して出荷しています。

商品である加工食品の「安全・安心」を保証するには商品一つひとつを検査する必要があります。以前は検査工程に多くの作業者を配置して出荷検査を行っていました。しかし、人手による検査は、個人差や疲労による集中力の低下などの問題もあります。

アンリツは、加工食品の生産ライン上での品質検査を自動化するとともに、食品ロスの低減につながるソリューションの提供を目指しています。これからも高度な品質保証ソリューションを提供し、お客さまとともに、誰もが安全で安心して暮らせる社会、食品ロスの少ない持続可能な社会の実現に貢献していきます。

社会課題の解決



食品・医薬品の品質保証の高度化を通じて、

- ・安全で安心して暮らせる社会
- ・食品ロスの少ない持続可能な社会



お客さま



アンリツ



強み

- ・生産ライン上での高速高精度な品質検査技術
- ・多様な食品製造環境に検査機を適応させるエンジニアリング力
- ・日本国内の充実した保守サービス体制と熟練した保守エンジニア
- ・日本国内の食品検査市場における実績とトップクラスの市場地位